

# カエルの歌もにぎやかに 沼田で無農薬の米づくり

群馬県・川場村 ↓ 群馬県・沼田市

今日は田植えの日。赤城山や子持山など群馬の名山を見渡せる田圃で、鈴木さん宅に集った仲間が1本1本手で稲を植えつけていく。敷地内の草地に水を引いた田圃は、春草を利用して、多様な生き物たちの住処が確保されている。高崎の大学でエネルギー関係の勉強を専門に学んだ頃から「山と米が大切」という信念を持った鈴木さん。川場村の森林組合で、利根郡一帯をフィールドに仕事を続けながら、昨年春より沼田の古民家に移住して、無農薬で米づくりを始めた。笑い声のたえないにぎやかな午後、皆さんと一緒にお話を伺った。

沼田駅よりバスで7分、着いたバス停からすぐの距離に、立派な古民家が控える。土蔵の前に植えられた南天が名の由来となり、かつては「南天大臣」と呼ばれた地元名士の元養蚕農家だ。その玄関前にしつらえられた木のテーブルを囲み、楽しげに談笑するのは、鈴木さんの田植えを手伝いにかけた皆さん。「ちょうどお昼休憩です」と、にこやかに鈴木さんが迎えてくれる。川場村の森林組合で働いて11年になる鈴木さんと同じ仕事仲間、沼田にお住まいの小川さん一家。中学・高校が一緒で、以来友達付き合いが続いている堀田さんは、横浜から足を運んでくれたそう。川場ほどなくもう1台車が入ってくる。「川場



▲新ストーブの煙突が屋根に出ている。給湯のみ、ソーラー温水器を利用。「家を持つと、地域密着の生活になりますね。草刈り、道路愛護、用水路の掃除など、班活動にも参加します」。



▲中央が鈴木さん。左側の3人が森林組合のお仲間の小川さん一家。右隣が、中学生の頃から仲の良い獣医の堀田さん。青い屋根の母屋の奥は物置兼作業場、車のすぐ向こうがお手洗い。その先の一段下がったところに田圃が広がっており、写真左手の敷地には畑も作られている。

**Personal Data**

- 現住所：群馬県沼田市井土上町
- 家族：大介さん（東京都・41）
- 敷積：約460坪
- 建物：約88坪（母屋）
- 資金調達：自己資金
- メッセージ  
これから農業をやりたいという方には、せっかくならぜひ無農薬・有機肥料でやってほしいです。失敗してもいいから！私も数々の失敗をしました。でも、試行錯誤は大事だと思います。山も手を入れず、荒れるに任せていけばだめになりますし、手間はかかっても、日本の自然がいろんな生き物でにぎわうようにしたいですね。

早速の米づくりでしたが、3畝で3俵くらいで、大収穫でした」と嬉しそうに鈴木さん。成功の秘訣は不耕起不除草栽培の春草農法にもあるようだ。田圃に春草を刈って鋤き込むと土中でガスが発生してしまうため、枯れるのを待ち、その草間に稲を植えるという。「自然の水路や茂みはいろんな生き物の住処になり、カエルやオニヤンマ、アメンボなどが悪い虫を食べてくれるので、農薬を使わなくても大丈夫なんです」。

高崎の大学で石油エネルギーに関する経済を学んだ鈴木さんは、20代から「山と米を大切にしなければ」という思いにかられていたという。卒業後は一旦、東京の三井物産林業で経理を2年、のちに千葉の農園に就き、稲作や養鶏に4年間励んだ。「その後住んだ川場村でも田圃を借りていましたが、自分の土地で米が作れるというのが決め手でしたね」と、本誌を通じて当地を選んだ理由を教えてくださいました。「作業場に使える広い物置があったのもよかったです。中に転がっていた昔の脱穀機が、現代のものよりずっと撈るので驚きました。ワンルームマンション暮らしと違い、広い古民家で暖を取るの大変ですが、薪ストーブが心強いですね。外庭にある手洗いを使っています。さほど不便ではありません」。



▲「農薬を使わないので、ミツバチも安心して水浴びに来ますよ」。肥料もやり過ぎず、多様な生物層のために環境を整える水田。「ビビラ」という木の道具で碁盤目に筋をつけ、苗をまっすぐに植えていく。春草農法は昨年一部で試して好調だったため、今年拡大した。掌の中のカエルの名前も教えてください。



ニホンアマガエル  
トウキョウダルマガエル

## ◆ 群馬県沼田市はこんなところ ◆

- 人口：52,277人（2012年6月現在）
- 世帯数：20,283戸 ● 面積：443.37km<sup>2</sup>
- 最高気温：36.0℃ ● 最低気温：-9.0℃
- 年間気温：12.2℃ ● 年間降水量：1,224.4mm
- 市の木：サクラ ● 市の花：キキョウ
- イベント：沼田まつり（8月3日～5日）
- スポット：沼田公園、玉原高原、吹割渓谷、老神温泉など。
- 産物：りんご、蜂蜜、日本酒、木工芸品など。
- アクセス：JR高崎線高崎駅経由JR上越線沼田駅  
関越自動車道高崎JCT経由沼田IC



▲鈴木さんが疲れを癒しに行く「地蔵温泉地蔵の湯スパリゾートゆにーいく」。

▲庄巻の天狗みこして有名な「沼田まつり」。



▲広い物置は、農作業や木工のためにも使っている。

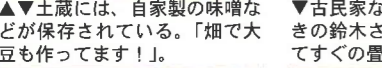


▲「昔の道具はよくできている」という木製の脱穀機。

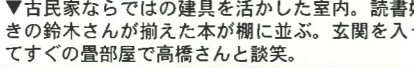
▲「鍛冶屋の爺さんが特別に作ってくれた鋤です」。



▶鈴木さん宅は、仕事仲間や昔なじみなど来客が絶えない。



▲土蔵には、自家製の味噌などが保存されている。「畑で大豆も作ってます」。



▼古民家ならではの建具を活かした室内。読書好きの鈴木さんが揃えた本が棚に並ぶ。玄関を入ってすぐの畳部屋で高橋さんと談笑。

